

来たかに見受らるる、故に單純な考へで直にストライキを行して居ては幸福を自ら放棄する結果となる、労働運動の目的は生活を如何に向上改善するかに盡ると思ふ、然しこの生活の向上改善は單に労働運動に依る労働條件の改善と云ふ事が幸福を齎すとは云へない、吾人の生活改善は先づ第一に健康であると思ふ、第二には道徳的な生活である、この健康と道徳的生活に對して資本家が尙搾取を事とするならば道理を説き非を説き力を以て經濟運動をする事が大切だ、然し階級闘争一本槍ではない、組合員自体の行動を反省し健康を保ち道徳的生活をなしてこそ本來の目的を達成する所以である。

○ 日本労働總同盟九州聯合會長 伊藤卯四郎

現在日本の情勢は目前に或る重大なる氣運が漲つて居る、今

回の防空演習でもわかる様に昭和十一年に國際間に何か起りはせぬか、或は戦争をせざるを得なくなるのではないかと云ふ事を前提として國防、軍備の擴充の必要上今軍事インフレが行はれてゐる。而して現在の軍需インフレは明年の秋及明後年のロンドン條約を敲點として戦争が無ければ縮少される此の難局解消と共に必ず其の生活戦線に異常を見るものと考へる、即ち現在のインフレも茲四、五年後に深刻なる不景氣となつて其の飛沫が労働大衆の上に墮つて來る事を覺悟せよ此の危機に當面せんとする本大會は重大なる意義と責任がある。總同盟は確實なる労働組合として日本の産業界から認められてゐる、確實と力強さに依る目前の國內非常時打撃は本大會に於ける諸君の決心如何である。力強き精神、信念を發揮せよ